

研究テーマ：表現力を高めるための指導の工夫

所属：梶原町立梶原中学校
氏名：島村 和久
RG：JH4

1 研究の背景

梶原中学校では、オーストラリア、クイーンズランド州、ボモナ州立中等学校と姉妹校となり、本年度も6年連続して、夏休みを活用し、3週間、12名が当地で体験留学を行っている。全体的に英語学習に熱心に取り組む生徒が多い。現在、中学2、3年生と梶原高校の1年生を担当しているが、ここでは対象クラスとして昨年度から担当している2年生（1クラス、33名、男子13名、女子20名）に焦点をあてたい。

このクラスは、英語の挨拶もよくでき、元気で明るい。ALTとの共同授業においても、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が多い。教師側も英語の使用を多くし、単元ごとのポイントをおさえ、生徒側に立った繰り返し練習を大事にしている。毎日1ページの単語練習（書いて覚えることに重点を置く）、単元ごとの読みのチェックや英検合格等の身近で具体的な目標を掲げ、1日1日の取り組みを大事にした指導を行っている。

（33名中22名が英検5級取得、5名が4級取得、12月現在）

しかしながら、5月に行ったCRTの結果から「話すこと」「聞くこと」を、不得意に感じている生徒が多いことがわかった。また授業では「話す」ことを得意に思う子どもたちが「書くこと」に不得意なこと。そして単語を覚えることはできるが、自分自身のことを表現することが不得意な生徒への対応はどうするのかといった問題も抱えている。（文の並び替え、長文問題にも顕著に表れている）

2 リサーチクエスチョン

「書くことを通して、表現力を身につけさせるためにはどのようにすればよいか」
（課題内容をよく理解し、並び替え問題や和文英訳問題の克服に向けて）

3 予備調査

(1) 授業観察結果

クラスルームイングリッシュについては、授業最初の5分間はよく使っている。読みとりの部分では、理解しやすいように平易な説明を英語で試みている。

書く指導について、まだまだ工夫が足りない。

生徒がカタカナ、ひらがなを使って発音を理解しようとしている。他に方法がないものかどうか再考したい。

(2) 意識調査の結果（平成15年6月30日実施）

読むことに不得意な生徒（21%）

話すことに不得意な生徒（45%）

聞くことに不得意な生徒（22%）

書くことに不得意な生徒（55%）

(3) 観点別到達度学力検査（CRT）

CRTの結果から、全国得点率との比較で、際立って低いものは次の通りである。

質問などを聞き適切に応じること

基本的な話し方を理解すること

英文の内容を正しく理解すること

伝えたい内容を考え正しく書く（—14.2）

観点別には「表現の能力」が低いと出ている。領域別に見ても「書くこと」「話すこと」の得点率が低い。上記のような予備調査の結果を見ても、表現の能力の育成が課題になっていることが明らかになった。そこで3つの仮説の設定を行った。

4 仮説の設定

【仮説1】聞いて文字が書けないことを避けるために、もう一度フォニックスで音と文字を一致する練習を行えば、単語を覚える力が増すだろう。

【仮説2】英語の構文を意識させ、繰り返し練習させることで、文のまとまりが理解でき、自由に英作文が書けるだろう。

【仮説3】教科書を徹底的に音読練習することで、inputの量を増やし、表現力を身につけさせることができるようになるだろう。

5 計画の実践

【仮説1について】（9月～12月）

●読める単語を増やすため、9月よりフォニックスの指導を取り入れる

●単元別にでなく、教科書1ページずつ単語テストを行う。

英語から日本語に。穴埋め問題。日本語から英語に。については教師側が発音して、音素指導で生徒が間違えやすかった語を選ぶ。テスト1回につき、5問程度。授業2～3回に1回の割合で行う

- 特に単語テストで書けなかった単語を中心に、フラッシュカードを活用して読み方を徹底させた。

【仮説2について】(9月～12月)

- 授業で英語を積極的に使う 教師が積極的に、できるだけ多く英語を使った授業に努める。毎日の授業ではクラスルームイングリッシュのみならず、世界で何が起こっているのかポイントを絞って、教師が英語を使い、生徒はマッピング等で内容をつかむ取り組みを行った。特に既習語には注意を払い、重ねて言うようにして、生徒の内容理解の深化に努めるようにした。
- 1年生、2年生で習った重要文をプリントにし、文のルールを確認した。
- 英検5級、4級レベルの並び替え問題に取り組んだ。

【仮説3について】(10月～12月)

- 音読指導
 - 全体練習
 - CDを聞く(教科書は見ない) ○もう一度CDを聞く(教科書を見る)
 - 2度個人で斉読する ○読めない単語を挙手させて、全ての単語が読めるようにする。
 - 2回斉読
 - ペアワーク
 - 発表(個人)
 - 個人の発表の前に、再度読めない単語を確認させ、すべての単語が読めるようにする。
 - 音のつながりを意識する。
 - 内容理解。生徒は教科書本文を、ワークノートに写してきているので、内容理解したあと、英語と日本語の間に線を入れ、ペアワークで英語は日本語に、日本語は英語にさせる。
 - 並び替え
 - 教科書本文から、1～2の文章を取り上げ、主語や動詞を入れ替えたり、時制を変えたりするクイズを行う。また直接、疑問文、否定文を作る。

6 実践の結果

【仮説1について】

フォニックスについては、前回の授業で行った音素内容の復習に力を入れた。生徒たちは読めるようになると自信がついたようだ。ほとんどの生徒が、数の少ない5問の単語テストに熱心に取り組んだ。また2学期は、計14回おこなったが、すべてを満点とった生徒は32名中7名であった。

【仮説2について】

1学期のころと比べると、教師側の英語の説明に注意して聞くようになった。また質問をしたり、一言感想を述べる生徒も出てきた(日本語で)。並び替え問題についてはまだ不得意に感じている生徒もいるが、時間をとって問題にあたらせると、質問が多く出されたり、英検の問題集を買い、自分で解いてみる生徒も出てきた。

【仮説3について】

各単語を自信をもって読めるようになると、読むスピードも速くなった。

7 結果の検証

上の実践を検証するために、CRTを実施したかったができなかった。そのかわり2学期の反省として、アンケートを実施した。(平成15年12月24日実施)結果は下記の通りである。

- 毎日ノートに単語を書いてきましたが、単語を覚えましたが。
はい、どちらかといえばはいと答えた生徒 (81%)
- 文のルールはわかりましたか。
はい、どちらかといえばはいと答えた生徒 (50%)
- 1年生のころと比べて並び替えの問題はどうでしたか。
はい、どちらかといえばはい、普通と答えた生徒 (61%)
- 簡単な英語の文章を読むことができますか。
はい、どちらかといえばはいと答えた生徒 (81%)

単語テストを通じて、単語を発音して書いて、覚えるといった基本的な学習は、おおかた身についてきていると言って良いだろうが、文のルールを確認して英作文を作成していくことにまだまだ不安を感じている生徒がいる。指導の継続が必要。

8 成果と今後の課題

できることならば英語のCRT検査を本年度中に行い、結果を考察してみたいと思う。実際には2学期末までの取り組みだったので、リサーチクエストンに対して大きな成果が出ていないのが正直な気持である。しかしながら子どもたちが英語の授業や家庭学習で、何を意識し、机に向かったらいいのか少しは学んでくれたのではないかと思う。カタカナ表記で発音を覚えようとしていた生徒がいた。佐野先生が8月のコメントに書かれていたことを参考にして、カタカナでは対応できないことがあることを伝え、リズムやイントネーションを多く練習に取り入れた。彼には自信をもって発音できるように、今後も指導していきたい。

この研修は、自分自身の授業の短所を改善することにつながり、生徒の声を授業に反映できたのではと思う。また他の先生方に授業を見ていただき、よい刺激が生まれ、次への目標ができたことで、自然とやる気が出てきた。今後も3学期の取り組みに向け実践を継続していきたい。